

ユネスコエコパーク

～自然と人間社会の共生のための取り組み～ ①

平成26年6月、只見町全域と桧枝岐村の一部が「只見ユネスコエコパーク」に認定されました。これは只見町の豪雪に特徴づけられた豊かな自然環境や野生動植物およびそれらと調和した住民の生活文化が、“自然と人間社会の共生のモデル”として国際的に高い評価を受けたものです。認定から10年の節目となる令和6年には、10年間の活動をユネスコへ報告し、次の10年へつなげていくこととなります。今月からユネスコエコパークとは何か、只見ユネスコエコパークの特徴などについて改めて紹介していきます。

ユネスコエコパークってなんだろう？

- ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）により国際的に認定された地域で、生態系の保護・保全とその持続可能な利活用の調和を実現する陸域および沿岸地域が対象となります。
- ユネスコ世界自然遺産が手つかずの自然を厳正保護することを目的にする一方、ユネスコエコパークは地域の生態系の保護・保全に加え、それらの持続可能な利活用（自然と人間社会の共生）を目的とする取り組みです。
- ユネスコエコパークでは、地域の豊かな自然環境や野生動植物の存在だけでなく、これらと調和した住民の生活文化の存在も評価されています。そのため、自然と調和した生活文化や活動を推進していくことが重要です。ユネスコエコパークは“持続可能な開発*のための実験室”であるとも言われます。
- ユネスコエコパークは日本での呼称で、国際的には Biosphere Reserve（ヴァイオスフィア・リザーブ、BR、生物圏保存地域）と呼ばれています。
- 認定地域は、ユネスコエコパーク世界ネットワークの一員となり、国内外での多様な連携、協力活動を積極的に実施することに努めます。世界には、129か国714地域の認定地域が存在します（令和3年7月現在）。



▲只見ユネスコエコパークのロゴマーク



▲日本のユネスコエコパークは10地域。
只見ユネスコエコパークは東北で唯一の認定地域

※持続可能な開発：「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のことを言います。この概念は、環境保全と開発を互いに反するものではなく共存し得るものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考えに立つものです。只見風に言えば、地域の宝であるこめらが平和で幸せに暮らせるように、大人たちが環境と開発の両立を考えて行動をしていく、ということでしょう。

次号は、ユネスコエコパークでは自然と人間社会の共生という目的の達成のためにどのような活動をしていくのかについて紹介します。